

創業20年を迎えて

株式会社リフシア 代表取締役 加藤 順一

拜啓 入梅の候 皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、リフシアは2003年7月1日に大勝建設介護事業部として

発足、そして2010年に株式会社リフシアとして分社独立し、今日に至りました。

そして本年は、介護事業に取り組み開始以来20周年を迎える運びとなりました。

これもひとえに皆様方の厚いご支援ご指導の賜物と心より感謝いたします。

職員一同、引き続き鋭意努力を重ねる所存ですので、今後とも倍旧のお引き立てを賜りますよう、よろしくお願いいたします。 敬具



リフシア20年の歩みと展望

株式会社リフシア 取締役副社長 小嶋 達之

だわりを持たたのは、幸いだったと思います。

『リフシアのケア』とは、「心を添えてともに生きる」という理念のもと、たとえ要介護になっても、「住み慣れた地域での在宅生活継続」。そして、そのための「新しい価値」の提供です。

リフシアは2003年の創業以来、常にこの「新しい価値」提供の実現を目指しました。

そして、在宅生活を支える多様なサービスを一元的に提供するための「サービス・ネットワーク」構築に努めてきました。

今、この「サービス・ネットワーク」は、単に介護サービスの集まりという範囲に留まらず、在宅での食環境改善を目指した「介護食・嚥下食」の提供や、介護予防の自立高齢者向けの運動教室と

いった生活支援にまで至る幅広いものとなっております。

私たちはこの「サービス・ネットワーク」こそが、新しい視点での介護サービス提供を可能にすると考えています。

様々な生活課題を持つ要介護高齢者並びにご家族様に、多様な専門職が向き合います。

そして個々のご本人の有する能力や生活環境に応じた「在宅生活継続」のための方法を提案します。

それが、「もう諦めていたけど、まだこうすればできるんだ」といった、お一人お一人にとつての「新しい価値」につながるのです。

振り返れば早いもので創業 20年、その道のりは決して平坦なものではありませんでした。そんな時、地域の皆様のお支えや、職員一人一人のたゆまぬ努力のもとに今のリフシアがあることは疑いようがありません。

しかしこれからは、高齢化の更なる進展とともに生産年齢人口の急減といった、今までにない大きな社会変化の到来が本格化します。誰も経験したことのない社会です。

このような時代には、より明確な方向性が必要になります。そしてピンチはチャンス発想です。

リフシアは、「二つの視点」を示し、力強く推進することで、さらなる成長を目指していけると考えています。

理念のもとでの事業展開〈地域限定〉

・茅ヶ崎・藤沢の人口集積部を中心に在宅生活を支える様々なサービス事業所を配置
・事業所配置には地域に暮らす方のアクセスを考慮 ・市域ごと、あるいは全体であたかも一つのサービスのように機能する

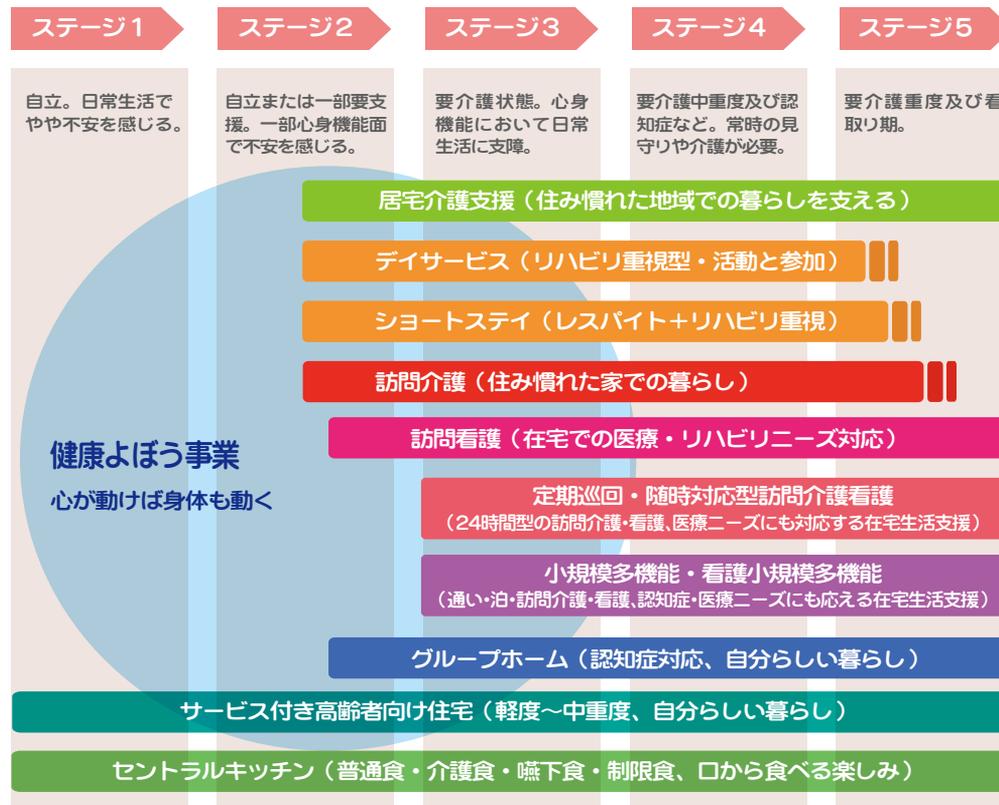


介護保険制度とリフシアの歩み

- 第1期2000年～2002年
介護保険制度スタート
自立支援、利用者本位、社会保険方式
- ◆2003年7月
株式会社リフシアの前身となる大勝建設介護事業部発足
- ◆2004年8月
ららら萩園 デイサービス開設（現リフシア萩園）
- 第2期2003年～2005年
高齢者の単身世帯や認知症高齢者の増加にともない在宅支援の強化、医療と介護の連携へ
地域密着型サービスの創設、地域包括支援センターの創設と予防給付の開始
- ◆2005年7月
ららら萩園居宅介護支援センター開設（現ケアフラン リフシア）
- ◆2006年12月
ららら松林 小規模多機能開設（現リフシア松林）
- 第3期2006年～2008年
大手介護事業者の不正請求・違法申請が発覚、再発防止に向け「業務管理体制の整備」が義務付けられた
- ◆2008年4月
ららら神明 小規模多機能・グループホーム開設（現リフシア神明）
- ◆2009年12月
株式会社リフシア設立
ららら柳島 小規模多機能開設（現リフシア柳島）
- 第4期2009年～2011年
高齢者が住み慣れた地域で生活する「地域包括ケア」の推進
24時間対応の定期巡回・随時対応型訪問介護看護や「複合型サービス」(のちに看護小規模多機能型居宅介護に名称変更)、介護予防・日常生活支援総合事業の創設、サービス付き高齢者向け住宅、介護職員処遇改善加算の創設など
- ◆2011年4月
ららら香川 小規模多機能・グループホーム開設（現リフシア香川）
- ◆2012年12月
ららら松が丘 小規模多機能・デイサービス開設（現リフシア松が丘）
- ◆2013年9月
ららら善行 小規模多機能・グループホーム開設（現リフシア善行）
- 第5期2012年～2014年
持続可能な社会保障制度を確立するために医療法や介護保険法を整備
予防給付を地域支援事業に移行し多様化、特別養護老人ホームについて原則要介護3以上の重度化支援、自己負担2割負担導入
- ◆2014年1月
株式会社リフシアネット設立
（現セントラルキッチンタンポポ）
- ◆2014年5月
リフシア浜之郷 サービス付き高齢者向け住宅（居宅・訪問介護併設）
- ◆2014年8月
大勝建設から分社化、株式会社リフシアにサービス事業所名も変更
- 第6期2015年～2017年
「団塊世代」が後期高齢者となる2025年を見据えた「地域包括ケア計画」を策定、高齢者の自立支援、要介護状態の重度化予防、地域共生社会の実現を目指す、自己負担3割負担導入など
- ◆2015年9月
リフシア鵜沼海岸 ショートステイ
イニテイサービス開設
- ◆2016年3月
リフシア神明の小規模多機能を看護小規模多機能に変更
- ◆2017年5月
リフシア矢畑 看護小規模多機能・グループホーム開設
- ◆2017年7月
訪問看護ステーションリフシア開設

理念のもとでの事業展開〈サービス・ネットワーク〉

・心身状態のステージに対応するサービスネットワーク ・在宅向け配食（普通・介護・嚥下）で在宅の食環境改善
・在宅生活継続に必要なサービスを一元的に提供



①専門性と根拠に基づいた介護の推進

- ・提供するケアサービスはホスピタリティー（※）を基本とするが、その考えや行動は専門性と根拠に基づくものである
- （※）心のこもったものでなし。歓待。＝広義の接遇

・目的は「自立支援・重度化防止」

②地域包括ケアの推進

- ・疾病や要介護の状態になっても、尊厳をもって自宅を含む住み慣れた地域で暮らしていく仕組み
- ・暮らしを支えるには、介護・医療・福祉等の多様な事業主体が連携・協働

③介護現場の革新

- ・得心を持つて働ける職場環境整備や処遇改善、人材育成の重視
- ・業務分析やICT活用による業務改善

・目的は「生産性向上と職員の育成定着」

このように、私たちリフシアは、明確な方向性と幅広い取り組みを通して、今までの延長線上ではなかなか測れない社会環境ではあります。これからは茅ヶ崎・藤沢における地域社会創造に積極的にその役割を果たしたいと考えています。これからもリフシア職員一同、日々奮闘してまいります。地域の皆様方には、引き続きご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願ひします。

- 第7期2018年～2020年
地域の実情に合わせた地域包括ケアシステムの整備、高齢者虐待の防止、人材の確保及び資質向上
- ◆2018年3月
リフシア大庭小規模多機能・グループホーム開設
- ◆2018年4月
ヘルパーステーション リフシア浜之郷 定期巡回・随時対応型訪問介護看護開設
- ◆2020年2月
訪問看護ステーション リフシア神明開設
- ◆2020年5月
ケアプランリフシア神明開設
- ◆2020年7月
ヘルパーステーション リフシア神明開設 現リフシア社堂 定期巡回・随時対応型訪問介護看護
- 第8期2021年～2023年
現役世代人口が急減する2040年を見据えた制度改革、感染症対策やBCP作成の義務化、質の高いサービス提供を「科学的介護」の実践で目指すLIFEデータ活用
- ◆2021年4月
リフシア藤が岡小規模多機能開設
- ◆2022年10月
株式会社リフシアネットを合併しセントラルキッチン事業部に組織再編
- ◆2023年4月
ケアプラン リフシア神明を閉鎖し、ケアプラン リフシアに統合、一本化する
- ◆2023年5月
セントラルキッチンタンポポ新工場に移転
- ◆2023年7月
株式会社リフシア創業 20年を迎える